

健康価値をどのように事業提供するかを学ぶ！

健康事業開発 コンシェルジュ講座 2020

人々の健康に関与する産業は医療分野だけではなく、広く多岐に渡り、日常生活における健康価値がビジネスになってきました。その健康価値をどのように提供するかをヘルスケアや健康科学に関する知見を身につけ、効果的にプロデュースできる人材の育成が必要です。

当講座では、健康価値を新たな裾野として3つのテーマに分け、それぞれの分野に携わるアカデミアの研究者や民間企業で活躍されている方々を交えてオンライン講座を開催します。商品開発・事業開発を考えるうえでのマインドセット、健康・ウェルネスについての基礎知識を身につけるカリキュラムを構成し、健康をこれからの提供価値として事業や商品、サービスを展開するために必須な知識となる講座としました。

■会場：オンライン開催（Zoom ウェビナー使用）

■対象：ウェルネス分野において新規事業創出を目指す方、事業開発を行っている方
企業の研究、事業企画・開発、マーケティング、経営 各部門の方
デザイナー、プロデューサー、設計士
大学や研究機関の研究者、大学院生

■受講料：<テーマ1> 健康事業開発（基礎編） 15,000 円（税抜） ※全4回
<テーマ2> 住環境における健康の視点 15,000 円（税抜） ※全3回
<テーマ3> アンチエイジング・老齡学 15,000 円（税抜） ※全3回

■開講日：<テーマ1> 2021年1月29日（金）～2月16日（火） 15:00～17:30（各回共通）
※詳細は裏面をご覧ください。
<テーマ2> <テーマ3> 日程調整中

■お申込み：株式会社 COPEL コンサルティング 健康事業開発コンシェルジュ講座運営事務局

Email: event@copelcs.jp

件名を「コンシェルジュ講座申込み」とし、お名前・ご所属・役職・連絡先アドレスをご記入のうえ、メールでお手続きください。

健康事業開発コンシェルジュ講座 2020 カリキュラム

テーマ1：健康事業開発（基礎編）

1月29日（金） 15:00～17:30

健康事業における価値創出（ウェルネス・エコノミクスとマイクロ・インシュアランス）

並木 幸久 九州大学グローバルイノベーションセンター 客員教授
(株) 国際総合知財ホールディングス 代表取締役社長



経済と価値を考察しながら健康事業における課題を分析し、SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」達成するためのウェルネス・エコノミクスとマイクロ・インシュアランスの可能性を解説する。

【企業事例】男性用化粧品の新たな文化を創造する

八木 理恵 株式会社STYLEC 代表取締役、国際イメージコンサルタント



自社メンズ化粧品ブランドROGEN（ロージェン）の事業事例を通し、文化醸成における課題と今後の可能性について紹介する。

1

2月2日（火） 15:00～17:30

デジタルヘルスの潮流

南雲 俊一郎 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門
ヘルスケア・事業創造グループ担当部長/プリンシパル



ウェルネス分野では、IT、IoT、AIなどを活用したデジタル化が必須である。国内外のデジタルヘルス事例を俯瞰しながら、事業創造のポイントについて解説する。

【企業事例】休養の潜在市場

片野 秀樹 一般社団法人 日本リカバリー協会 代表理事



休養は健康を維持するために大切な生活行為である。そのために、休養リテラシーを向上し自らの行動変容を促すことがいま求められている。当協会を立ち上げ、休養の体系化、市場の創造のみならず、株式会社ベネクス製品の研究開発を行っていることから、その取り組みもあわせて紹介する。

2

2月8日（月） 15:00～17:30

人のリズムの真髄は太陽にあり ～生体リズムと睡眠の潮流～

若村 智子 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 教授



ウェルネス事業を開発・分析するうえで、生体リズムの基礎知識の理解は重要である。IT社会で、入手できた時間とその使い方について、実験や疫学研究の知見をもとに解説する。

【取組事例】暮らしの普遍性

辻 明俊 法相宗大本山 興福寺 執事&境内管理室長



人には普遍的な生活リズムと習慣的行動、環境的行動（身の回りの環境）がある。1000年前前から引き継がれている精神性や文化の変化と人々の健康な暮らしについて考察する。

3

2月16日（火） 15:00～17:30

産学連携によるイノベーションの創出

坂井 貴行 神戸大学バリュースクール 教授

ウェルネス分野の事業開発に企業と専門家の連携は必須である。企業の開発ニーズと大学の技術シーズをマッチングして、産学連携による新製品開発を行うための連携事例や成功ノウハウについて紹介する。



【企業事例】産学連携（仮題）

三寺 歩 ミツフジ株式会社 代表取締役

ウェルネス分野の事業開発の際には、産学連携で研究等を実施することが多い。その際の課題などを事例として紹介する。

4

今後の開催予定テーマ ※詳細確定次第ご案内いたします。

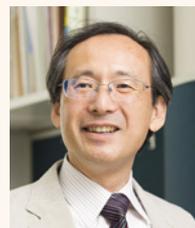
テーマ2：住環境における健康の視点

2月～

住まいの温熱・空気環境改善による健康寿命の延伸

伊香賀 俊治 慶應義塾大学理工学部 システムデザイン工学科 教授

既に海外では健康が住宅政策の一つになっており、今後我が国でも対策が進む。ここにウェルネスビジネスの商機があるだろう。住宅の空気環境と健康の関係を研究し、スマートウェルネス住宅推進調査委員会幹事でもあることから、その関係性と最新の事例を紹介する。



1

木質住環境が人にもたらす効果

恒次 祐子 東京大学大学院 農学生命科学研究科生物材料科学専攻 准教授

我が国では伝統的に建築空間に木材が多く用いられてきたが、そのことによる人への効果はまだよく分かっていない。木造建築が見直されている今、日本人に馴染みのある木質の住環境には、リラックス効果や健康増進効果があることが解明され始めた。効果検証研究による最新データについて解説する。



2

テーマ3：アンチエイジング・老齡学

ジェロントロジー（老齡学）からみた長寿社会の課題と可能性

秋山 弘子 東京大学高齢社会総合研究機構 客員教授

長寿社会における個人、社会、産業の課題と可能性を全国高齢者調査、まちづくりの社会実験、オープンイノベーションの場のひとつである「鎌倉リビングラボ」などの取り組みを紹介して解説する。



1